

急性尿閉を主訴とした処女膜閉鎖症の1例

国立霞ヶ浦病院泌尿器科 (医長: 飯ヶ谷知彦)

大東 貴志, 飯ヶ谷知彦, 中島 史雄*

ATRESIA HYMENALIS WITH ACUTE URINARY RETENTION:
A CASE REPORT

Takashi Ohigashi, Tomohiko Iigaya and Fumio Nakajima

From the Department of Urology, National Kasumigaura Hospital

We report a case of atresia hymenalis in a 14-year-old girl presenting with a clinical symptom of acute urinary retention. On physical examination she was found to have a lower abdominal mass and an imperforated bulging hymen. She underwent hymenal incision, and subsequently the symptom disappeared. It is very uncommon for atresia hymenalis to manifest itself with acute urinary retention as the first clinical sign, but we should consider this disease if a pubertal girl seeks medical opinion for acute urinary retention.

(Acta Urol. Jpn. 36: 97-99, 1990)

Key words: Atresia hymenalis, Acute urinary retention

緒 言

処女膜閉鎖症は、婦人科領域ではしばしばみられる疾患であるが、急性尿閉を初発症状として発見される症例は稀である。今回われわれは、急性尿閉を主訴として、泌尿器科を受診し、処女膜閉鎖症と診断された1例を経験したので、若干の考察を加え報告する。

症 例

患者: 14歳女性, 中学生

初診: 1987年7月10日

主訴: 尿閉

家族歴: 特記すべきことなし

既往歴: 3歳, 両股関節脱臼。12歳, てんかん投薬中。

現病歴: 1987年5月頃より易疲労感, 食欲不振が見られたが放置していた。7月3日頃より便秘となり小児科で、緩下剤を処方され改善をみたが、7月10日朝より突然尿閉となったため、当院受診した。

現症: 身長 163 cm, 体重 53 kg. 下腹部は膨隆しているが圧痛を認めない。上腹部は異常なし。第2次性徴である乳房の発育, 陰毛は正常であった。導尿により約 1,000 ml の尿の排出がみられたが、検尿所見には異常を認めなかった。外陰部視診では、Fig. 1 の

ように、膨隆した処女膜で腔口は完全に閉鎖されていた。

経過: 腹部超音波検査では、Fig. 2 のように均一な low density の mass を認め、拡張した腔内腔と思われた。IVP では、軽度の水腎症と下部尿管の側方へ偏位がみられ、膀胱の圧排像が認められた (Fig. 3)。また、同時に行われた膀胱尿道造影では、尿道が前方に偏位し、膀胱は腹側上方に圧排されていた (Fig. 4)。以上の所見により、処女膜閉鎖症および腔溜血腫のための排尿障害と考えられ、当院産婦人科に紹介した。

7月15日、処女膜十字切開術が行われ、約 1,000 ml のチョコレート様内容物の排液をみた。術後経過は順調で、排尿状態も正常となり、9月5日に正常月経の発来を見た。

考 察

処女膜閉鎖症は、尿生殖洞, Müller 管の発生異常がその原因と考えられており、その発生頻度は、Herbut の報告では、0.014~0.024%とされている¹⁾。

本症は思春期になって初めて症状を呈することが多く、それ以前に発見されることは少ない。月経開始後、月経血の貯留を生じ、まず、腔溜血腫をおこし、その後子宮卵管溜血腫へと拡大する。本症による排尿困難は、腔溜血腫によって、尿道が恥骨方向へ偏位

*現: 防衛医科大学校泌尿器科

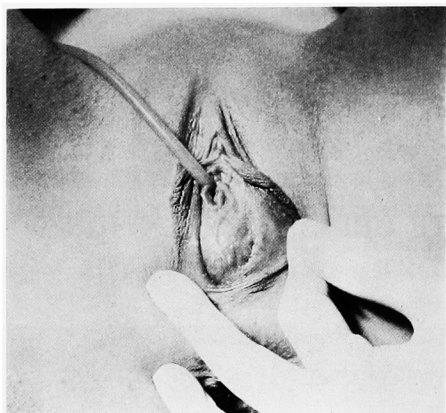


Fig. 1. Gross appearance of external genitalia of the patient. An imperforated bulging hymen closed external vaginal orifice completely.

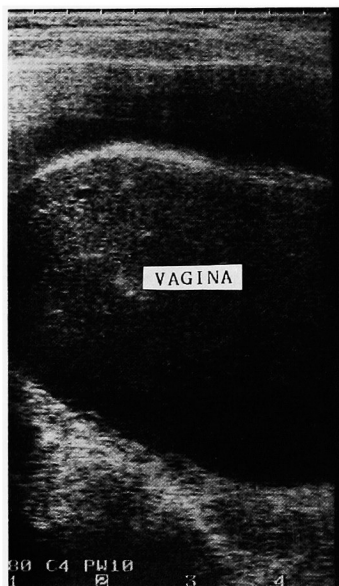


Fig. 2. Ultrasound revealed fluid collection in a dilated vagina.

し、膀胱が腹側上方へ圧排されることにより生じ、症状としては、頻尿、切迫性尿失禁、残尿感、尿閉と多様である²⁾。また時間の経過とともに上部尿路へも影響を与える場合がある。

本症は、CT および超音波断層法で、拡大した膣または子宮をみることによって診断できるが、最も大切なことは、問診および外陰部視診である。外陰部視診では、処女膜が膣口を被い膨隆し、それを通して内容が観察される。本症例においては、初回診察の際、外陰部視診で診断できたが、一般に泌尿器科医は、外来

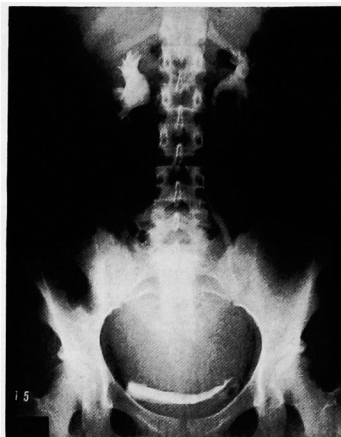


Fig. 3. IVP showed mild bilateral hydronephrosis with lateral deviation of ureters.

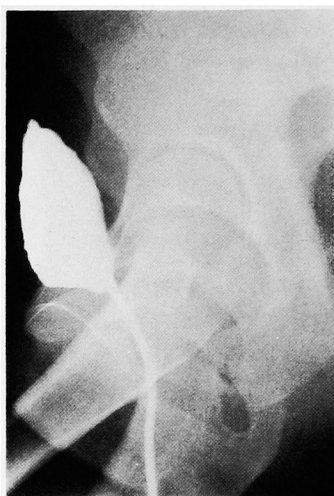


Fig. 4. Lateral cystogram showed the bladder compressed upward and elongated urethra.

で本症を経験することが稀であるため、診断が遅れることがある³⁾。排尿困難を主訴とした処女膜閉鎖症の本邦報告例は少なく、われわれが調べたかぎりでは、泌尿器科領域の文献において、自験例も含めて5件、7例が認められるのみである³⁻⁶⁾。本症は診断がつかさえすれば、処女膜切開をすることにより容易に治癒できる疾患であるため、思春期女子が排尿障害を主訴に来院した場合、本症の存在を常に考えながら、注意深く診察を行うことが重要である。

文 献

- 1) 川上 博：女性性器の奇形、位置異常、損傷、炎症。現代産婦人科学大系 8A。小林隆編，pp. 12，中山書店，東京，1971

- 2) Gandin MM: Urinary symptoms associated with imperforate hymen. J Urol **86**: 665-668, 1961
- 3) 西岡 伯, 朴 英 哲, 郡 健二郎, 秋山隆弘, 栗田孝: 急性尿閉を呈した処女膜閉鎖症の2例. 西日泌尿 **48**: 983-985, 1986
- 4) 樋口正士: 排尿困難を主訴とした処女膜閉鎖症の1例. 臨泌 **22**: 549-551, 1968
- 5) 田村瑞穂, 津久井 厚: 急性尿閉を呈した処女膜閉鎖症の1例. 臨泌 **26**: 325-327, 1972
- 6) 永田一夫, 多嘉良稔: 排尿障害を主訴とした処女膜閉鎖症の2例. 臨泌 **30**: 795-798, 1976

(Received on April 26, 1989)
(Accepted on June, 7, 1989)